

日本分類学会連合ニュースレター

*News Letter published by the Union of
Japanese Societies for Systematic Biology*

No. 41 [2023年6月30日]

日本分類学会連合のトピックス

第22回日本分類学会連合公開シンポジウム

日本分類学会連合第22回公開シンポジウム「標準和名って何?—その歴史と現状、展望まで—」が、2023年1月7日(土)にオンラインで開催されました。コロナ禍の下でのオンライン開催という選択でしたが、盛会となり、263名(事前申込数323名)の参加がありました。シンポジウムの要旨は、日本分類学会連合公式ウェブサイト以下のURLからダウンロードできます。

<http://www.ujssb.org/sympo/index.html>

2022年度活動報告

2022年度(2022年1月1日~2022年12月31日)における当連合の主な活動は以下の通りです。

- 2022年1月8日 第21回総会・シンポジウム「共生—種を超えたつながり—」を開催(事前申込数:191名、うち最大時の同時参加者数:126名)。
- 2022年1月14日 ABS問題対策ワーキンググループより、加盟団体にABS対応の「見える化」に関して協力を依頼。
- 2022年1月18日 第21回総会議事録を作成。
- 2022年1月27日 第49回役員会を開催。役員引き継ぎ・総会・シンポジウムの振り返りを実施。
- 2022年5月16日 ABS問題対策ワーキンググループより、加盟団体にDNAの塩基配列の自由な利用が阻害されることによる研究活動の停滞を防ぐために研究者向けの署名活動についての周知・協力を依頼。
- 2022年6月13日 第51回役員会を開催。広島大学所蔵の学術資料の保全に関する要望書案について検討。シンポジウムテーマについて審議。
- 2022年6月15日 広島大学所蔵の学術資料の保全に関する要望書案について、加盟団体に審議を依頼(25団体中、賛同23、未回答2)。7月1日付で要望書を確認。7月4日広島大学宛てに要望書を提出。
- 2022年7月11日 生物科学学会連合の依頼を受け、若手研究者支援に関するアンケートへの回答を加盟団体に依頼。ABS問題対策ワーキンググループより、ABS指針フォローアップ検討会報告書骨子案についてのパブリックコメントについて、加盟団体に周知。
- 2022年7月26日 生物科学学会連合第25回定例会議(オンライン)に出席。若手研究者支援に関するアンケートの結果を共有。参議院選挙に合わせて実施された科学技術政策に関するアンケートについて共有。日本学術会議「未来の学術振興構

想」について情報共有。

- 2022年8月9日 生物科学学会連合の依頼を受け、高等学校の生物教育における教育用語集の作成に向けての用語要望調査のアンケートを加盟団体に依頼。
- 2022年11月28日 生物科学学会連合第26回定例会議(東京大学)に出席。令和5・6年度代表として東原和成氏(日本生化学会より推薦)が選出された。高等学校の生物教育における教育用語集の作成に向けての用語要望調査の結果について共有。生科連が主催する「第4回生きものつづきフォトコンテスト」、「第3回生物科学学会連合公開シンポジウム生態系と生物を活かしたカーボンニュートラル」について共有。「学協会に係る法人制度—運用の改善と弾力化について」の日本化学連合の内閣府への提言書について、生科連が連名となることが承認された。国立沖縄自然史博物館に関する共有。
- 2022年12月12日 第51回役員会を開催。総会・シンポジウムに関する打ち合わせ。
- 2022年12月18日 国立科学博物館主催のGBIF21世紀の生物多様性研究ワークショップ(通算第17回)「生物の種名目録を作り共有する」への後援。

特別寄稿

「標準和名問題検討ワーキンググループ」の設置について

瀬能 宏¹・大塚 攻²

¹日本魚類学会；
神奈川県立生命の星・地球博物館
²日本動物分類学会；
広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター

【経緯】

標準和名は、生物の分類単位や分類階級を特定するための学術的日本語名であり、社会において対象生物についての共通理解を得るためのキーワードです。発音がしやすいこと、意味を容易に理解できること、記憶しやすいことなど、一般的になじみがない学名の短所を補う便利なものとして、対象とする生物やその関連分野の研究の進歩や普及に止まらず、教育や行政、法律の現場で大きく貢献してきました。しかしながら、標準和名についての認識は、研究者間あるいは学術団体間で完全に共有されているかという点、必ずしもそうではありません。例えば、学名と異なり異名や同名にルールがなく、音揺れによる不統一、差別的語や不適切語の

是非などの解決は様々な事情から容易ではないと言われています。また、ある和名を持った生物が固有のタクソンかどうかについても複数の意見があります。

そこで日本魚類学会が代表となり、2023年1月7日に開催された日本分類学会連合第22回総会において、我々は「標準和名問題検討ワーキンググループの設置について」を提案しましたが、全会一致で了承されました。同日午後に第22回日本分類学会連合公開シンポジウム「標準和名って何？—その歴史と現状、展望まで—」（日本分類学会連合主催；国立科学博物館・日本魚類学会共催）をオンラインで開催しました。このシンポジウムでは最初に標準和名の概念がどのような歴史的経緯を経て成立したのかを瀬能が基調講演し、大塚を含む5人のシンポジストがそれぞれの対象生物の標準和名の現状や課題について話題提供を行いました。複数の分類群の標準和名問題に関するシンポジウム開催は初めての試みであり、事前申込数323名、最大時の同時参加者数は263名を数え、この問題についての関心の高さを窺わせるものとなりました。

本ワーキンググループについては、2023年6月30日付で日本分類学会連合により承認され、標準和名問題の現状把握や解決に向けて本格始動することになります。みなさまのご支援、ご協力を賜りたく、ここにお願い申し上げます。構成メンバーは以下の通りです。

氏名	所属学会	所属機関	研究対象
<座長>			
瀬能 宏	日本魚類学会	神奈川県立生命の星・地球博物館	魚類
<委員>			
本村浩之	日本魚類学会	鹿児島大学総合研究博物館	魚類
大塚 攻	日本動物分類学会	広島大学瀬戸内CN国際共同研究センター	海洋無脊椎動物
西海 功	日本鳥学会	国立科学博物館動物研究部	鳥類
川田伸一郎	日本哺乳類学会	国立科学博物館動物研究部	哺乳類
渡辺恭平	日本昆虫学会	神奈川県立生命の星・地球博物館	昆虫(膜翅目)
柿添翔太郎	日本甲虫学会	国立科学博物館標本資料センター	昆虫(鞘翅目)
駒井智幸	日本甲殻類学会	千葉県立中央博物館	甲殻類
島野智之	日本ダニ学会、日本原生生物学会、日本土壌動物学会、日本動物分類学会	法政大学国際文化学部	ダニ類、微細藻類以外の原生生物、土壌動物(陸生節足動物)寄生生物
新田理人	日本動物分類学会	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所	
上島 励	日本貝類学会	東京大学理学部	軟体動物
北山太樹	日本藻類学会	国立科学博物館植物研究部	藻類
仲田崇志	日本藻類学会	北海道大学理学部生物科学科	藻類
大村嘉人	地衣類研究会	国立科学博物館植物研究部	地衣類
細矢 剛	日本菌学会	国立科学博物館植物研究部	菌類
米倉浩司	日本植物分類学会	沖縄美ら島財団総合研究センター	維管束植物

【主な活動内容】

1. 日本分類学会連合に加盟する学術団体それぞれの現状を把握し、問題点の洗い出しを行います。
2. 必要に応じて連合の内外に向けた提言や意見書などの提案を行います。
3. 関連学会に設置されている和名に関係する委員会・WG等と情報交換を行います。
4. メールや年に1~2回程度のオンライン会合により進捗状況を共有します。
5. 日本分類学会連合総会において活動報告を行います。

日本分類学会連合加盟学会の 大会・シンポジウム情報

新型コロナウイルスの流行状況によって、様々な学会で大会・シンポジウムのスケジュールや実施方法の変更が行われる可能性があります。各加盟団体のホームページから最新情報を入手してください。

日本魚類学会

2023年度日本魚類学会年会

会期：2023年9月1日(金)~4日(月)

会場：長崎大学文教キャンパス(長崎市)

詳細：<https://www.fish-isj.jp/event/index.html>

日本蜘蛛学会

日本蜘蛛学会第55回大会

会期：2023年8月25日(金)~26日(土)

会場：東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパス(上益城郡益城町)

詳細：<http://www.arachnology.jp/meeting.php?n=1>

日本甲虫学会

日本甲虫学会2023年年次大会

会期：2023年12月2日(土)~3日(日)

会場：愛媛大学農学部樽味キャンパス(松山市)

詳細：<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/taikai/taikai2023.html>

日本古生物学会

2nd Asian Palaeontological Congress

会期：2023年8月3日(木)~7日(月)

会場：東京大学本郷キャンパス(文京区)

詳細：<https://www.apc2.org/>

備考：2023年年会は開催されません。

日本昆虫学会

日本昆虫学会第83回大会

会期：2023年9月16日(土)~18日(月)

会場：佐賀大学農学部(佐賀市)

詳細：<https://entsoc.jp/meeting/2023/>

日本進化学会

日本進化学会第25回大会

会期：2023年8月31日(木)~9月3日(日)

会場： 琉球大学千原キャンパス（西原町）
 沖縄県市町村自治会館（那覇市）
 詳細： <https://w3.u-ryukyu.ac.jp/anthropology/shinka2023/>

の普及と発展に寄与することを目的(規約第2条)」として、2002年1月12日に設立されました。現在、分類学に関係の深い27の学会が加盟しています。その後、本連合はこの目的に向かって様々な活動を展開してきましたが、このたび新たな事業として「メーリングリスト〈TAXA〉」を開設することになりました。このリストの趣旨は、本連合からの広報のほかに、登録会員が互いに分類学に関する情報交換や討論をするための場を提供することにあります。したがって、このリストは本連合の加盟学会の会員ばかりでなく、分類学に関心をもつすべての方に開放されます。なお、リストへの登録など管理、運営は本連合の担当者が行いますが、投稿は登録会員なら誰でも自由に行えます。多くの方が登録くださいますようお願い申し上げます。

日本蘚苔類学会

日本蘚苔類学会第52回山形県西川大会
 会期： 2023年8月18日(金)～20日(日)
 会場： 西川町生涯学習施設「あいべ」大ホール
 (山形県西村山郡西川町) (予定)
 詳細： <https://www.bryosoc.org>

日本ダニ学会

第32回日本ダニ学会大会
 会期： 2023年9月22日(金)～24日(日)
 会場： 北海道立道民活動センター(札幌市中央区)
 詳細： <https://acarology-japan.org/taikai/32-2023/ja/>

2003年12月21日
 日本分類学会連合
 代表：加藤雅啓

日本地衣学会

日本地衣学会第22回大会(東京)
 会期： 2023年12月9日(土)～10日(日)
 会場： 東京理科大学葛飾キャンパス(葛飾区)
 詳細： http://www.lichenology-jp.org/ja/field/meeting/2023_tokyo

〈TAXA〉は2003年12月13日に開設され、2003年12月24日午後5時に稼動開始しました。2020年4月1日より新サーバーでの運用を開始しています。2023年6月20日の時点で770名の会員が登録されています。入会を希望される方は、

- 1) メールアドレス
- 2) 氏名(日本語表記ならびにローマ字表記)
- 3) 所属

を明記の上、office@ujssb.orgまでご連絡ください。なお2023年4月時点で配信エラーとなっていた会員につきましては、登録を削除しております。もし2023年4月以降にTAXAからの配信がない場合は、お手数ですが再度登録いただきますよう、お願い申し上げます。

日本爬虫両棲類学会

日本爬虫両棲類学会第62回船橋大会
 会期： 2023年7月15日(土)～16日(日)
 会場： 東邦大学習志野キャンパス(船橋市)
 詳細： http://herpetology.jp/meeting/index_j.php

日本プランクトン学会

2023年度日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会
 会期： 2023年9月1日(金)～3日(日)
 会場： 北海道大学函館キャンパス(函館市)
 詳細： <https://sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/2023bp/>

[編集後記]

分類連合ニュースレターでは随時加盟学会員の皆様から広くご寄稿を募集しております。原稿は江口宛(antist@tmu.ac.jp)に電子メールでお送りください。皆様からの多数のご寄稿をお待ち申し上げます。(ニュースレター編集担当：江口克之)

日本哺乳類学会

日本哺乳類学会2023年度大会100周年記念大会
 会期： 2023年9月7日(木)～10日(日)
 会場： 琉球大学(沖縄県西原町), なはと(那覇市)
 詳細： <https://msj2023.sakura.ne.jp/index.html>

日本分類学会連合ニュースレター 第41号
 2023年6月30日発行
 発行者 日本分類学会連合
 事務局 〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
 国立科学博物館・筑波研究施設内
 編集者 江口克之(東京都立大学院理学研究科)

TAXA —— 生物分類学メーリングリスト

日本分類学会連合が運営するメーリングリスト〈TAXA〉は、生物分類学に関する情報交換や討論をするためのメーリングリストで、生物分類学に関心をもつすべての方に開放されています。〈TAXA〉メーリングリストは下記の趣旨により開設されました。

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野